

くすの木

## 県立図書館だより

第86号

平成 31年 3月発行

兵庫県立図書館

〒673-8533 明石市明石公園 1 番 27 号

TEL(078) 918-3366

レファレンス専用 918-3377

<https://www.library.pref.hyogo.lg.jp>[https://www.library.pref.hyogo.lg.jp/i\\_top.html](https://www.library.pref.hyogo.lg.jp/i_top.html)

兵庫県立図書館は、「利用者の調査研究の支援」、「市町立図書館の支援」という観点から、3つの機能(資料保存センター機能・調査相談センター機能・相互協力センター機能)の充実を図り、県域の情報拠点となるために、様々な事業に取り組んでいます。

今回は、7月1日にリニューアルオープンした図書館と、リニューアルオープン後の展示・講座等の取組についてご紹介します。

## 県立図書館リニューアルオープン



図書館外観



課題解決コーナー



大閲覧室



親子読書室

兵庫県立図書館は建築後41年を経過し施設も老朽化が進んでいました。耐震補強、安全性の向上等のため、平成28年9月に着工した耐震改修工事が完了し、平成30年7月1日にリニューアルオープンいたしました。リニューアルオープンした図書館には、利用サービスの拡充を図るために、書庫スペース・書架・閲覧席を増設し、正面ロビーに来館者専用エレベーターが新設されています。子育て中の方がお子様と一緒に読書できるように絵本・児童書とともに子育て関連の図書を配置した親子読書室や、暮らしの中の法情報・医療介護・ビジネス支援などのテーマ別に図書を配置し、ディスカッションできるスペースを設置した課題解決コーナーを大閲覧室内に新設しました。新しくなり、より使いやすくなった兵庫県立図書館へ、ぜひ足をお運びください。



## リニューアルオープン記念講演会



第1回 記念講演



第2回 記念講演



第3回 記念講演

県立図書館のリニューアルオープンを記念して、3回の記念講演会を行いました。

- **第1回 7月15日(日)「図書館の上手な使い方」**  
講師：中野雅至(神戸学院大学現代社会学部教授)
- **第2回 11月11日(日)「『十五少年漂流記』の舞台の謎～J・ベルヌのメッセージ?～」**  
講師：田辺真人(園田学園女子大学名誉教授)
- **第3回 12月22日(土)「読書は心の夢飛行」**  
講師：永田萌(イラストレーター・絵本作家)

テレビ、ラジオなど多くのメディアでお名前を拝見することが多い3名の方を講師にお招きし、「図書館の使い方」や、「物語を読み解くということ」、「読書とは何か」といった内容で、ご自身の経験を交えられた造詣の深いお話を、多くの利用者の方に楽しみながらお聞きいただきました。

## 特別展示

県立図書館では様々なテーマを設定し、所蔵資料を活用した展示を行っています。今年度も多くの展示を行いました。その一端を紹介します。

### ● 県政150周年記念展示

県政150周年にあたり、兵庫県の150年を振り返る特別展示。1年を通じて、「明治の偉人たちが目指した日本・兵庫」「激動の昭和期 阪神大水害から明石海峡大橋着工まで」「不死鳥兵庫の平成30年史 阪神淡路大震災からの復興」とテーマを変えながら、当時を振り返る資料や関連図書を展示。2月12日には、阪神淡路大震災からの復興に関連して、特別展示関連講座「地震・津波について」を実施しました。神戸地方気象台から講師をお招きして、地震の際の避難についてのシミュレーションを交えながら、県民の皆様防災意識を高めていただく機会となりました。



県政150周年記念展示

### ● +10(プラステン):いつもよりプラス10分多く体を動かそう

厚生労働省も健康寿命を延ばすため、いつもよりプラス10分多く体を動かす、『+10(プラステン)』を推奨しています。いつまでも元気に過ごすためにランニングなどの気軽に始めることが出来るスポーツを紹介するとともに、天理大学の上谷聡子先生(第1回神戸マラソン女子優勝者)をお招きし、特別展示関連講座「今日から走ろう～初マラソン、サポートします」を実施。マラソンについての基礎知識やレースまでの準備についてお話しいただいた後、実際に明石公園内をランニングする講座に、多くの方にご参加いただきました。実際にシティマラソンに参加するために申し込まれた方も多くおられました。



+10(プラステン)



## 企画展示・図書展示



森はな没後30年



西国三十三か所草創1300年

県立図書館ではリニューアルオープン後も、書架やスペースを利用した企画展示、図書展示を行っています。さらに新設された親子読書室や課題解決コーナーでも季節・時宜に応じたテーマを設定し、企画展示、図書展示を数多く行っていきます。その中からいくつかをご紹介します。

### ● 森はな没後30年 ●

親子読書室で関連の絵本を展示したほか、加古川市所蔵の原画も併せて展示。森はなさんの物語の世界を紹介しました。

### ● 西国三十三カ所草創1300年 ●

日本最古の巡礼路、西国三十三カ所に関連する蔵書を展示するとともに、納経帳や巡礼時の服装なども紹介し、巡礼文化に触れていただきました。

そのほか、将棋関連の図書を展示した「これであなたも名人に」や、課題解決コーナーに「認知症と介護を考える～脳科学からのアプローチ～」など、多種多様な分野にわたって展示を行いました。

## 講座等

県立図書館では、図書館をより活用していただくための利活用講座に加え、地域の情報拠点となるべく所蔵資料や資料に関する情報を的確に分かりやすく県民の皆様に伝えると共に地域の課題解決に役立つことをめざして、様々な講座を開催しています。



出前講座「和綴じノート作り」



明石公園をたんけんしながら植物であそぼう！



兵庫県立図書館寄席

### ● 出前講座 ●

「和綴じノート作り」「著作権について」など様々なテーマで、県立図書館の職員が県内の公共図書館や公共施設に伺い講座を行います。今年度は、ピッコロシアターの40周年記念祭でも、「和綴じノート作り」の講座を実施しました。

### ● 子ども読書活動支援モデル事業 ●

「明石公園をたんけんしながら、植物であそぼう！」と題し、未就学児や小学生とその保護者を対象に明石公園内を探索、集めた葉っぱを使ってミニ図鑑と葉っぱを使ったおもちゃを作る講座を実施しました。

### ● 利活用講座 ●

毎年実施している「和綴じノート作り」「村上春樹文学講座」に加え、「図書館 de 婚活」「図書館寄席」など、新たな講座を実施しました。「図書館 de 婚活」では、ゆげ焙煎所より講師を招いてコーヒーセミナーを実施、「図書館寄席」では桂紋四郎さんをお招きして、いつもの図書館とは異なる雰囲気の講座を楽しんでいただきました。

そのほか、「図書館職員研修」や「学校サポート講座」など、県立図書館を知っていただき、より活用していただけるよう、多くの講座を行っています。



## ●レファレンスあれこれ

昨年7月の県立図書館リニューアルオープンに合わせ、長らく休刊していた『レファレンスの樹』の発行を再開しました。この『レファレンスの樹』は、レファレンス業務の参考にしていただくため、県内市町立図書館向けに当館のレファレンス事例を紹介する冊子です。7月に発行しました73号より、事例をご紹介します。

### 「謎多き第七十三国立銀行」

“ナンバー銀行”をご存知ですか。明治期、国立銀行条例に基づいて開設された銀行は、設立順に振られた通し番号が行名についており、現在はこのように呼ばれています。以前は兵庫県にもナンバー銀行がありました。その一つである“第七十三国立銀行”について、設立時の所在地と初代頭取を知りたい、というお問合せを受けました。

まず、明治以降100年間の兵庫県についてまとめられた『兵庫県百年史』(216.4/4)を確認します。この資料は県政100周年記念に刊行されたもので、今年150周年を迎えるにあたり、その後50年分の続編が編纂される予定です。p218に「兵庫県下国立銀行一覧」があり、第七十三国立銀行も載っていました。所在地の欄は「兵庫→大阪」となっており、どうやら後に移転したようです。頭取の記載はありませんでした。

次に、市町村史を見てみます。所在地については、『神戸市史本編各説』(216.41/6/1-2) p31、『新修神戸市史 産業経済編3』(216.41/102/2-3) p139に、兵庫出在家町に創立の出願をした旨の記述がありますが、番地までは載っていませんでした。町名がわかったので地図から探してみることにし、明治43年刊行の『神戸市地籍図 坤』(291.641/121/2)を確認しました。p42に「出在家町地図」がありましたが、銀行は見当たりませんでした。

『神戸市史本編各説』p31では、出資者として太田資政、北風莊右衛門(後の正造)、神田兵右衛門、岩田正吉、長谷川保兵衛の5名が挙げられていますが、頭取の記載はありません。『神戸市史 別録1』(216.41/1/3)の「近世人物列伝」で探すと、北風正造の項に p57「第七十三国立銀行を創立して其頭取に挙げられ」との記述がありました。初代であったかは明記されていません。また、神田兵右衛門の項もありましたが、こちらには p63「第七十三国立銀行を創立して其取締役となる」とあるので、頭取

ではなかったようです。『神戸の歴史 古代から近代まで』(216.41/23/1)にも p181「頭取は北風正造であった」と書かれているので、頭取は北風が有力でしょうか？

「銀行変遷史データベース」(<https://www.zenginkyo.or.jp/library/hensen/>)を使ってみます。全国銀行協会がインターネットで公開しており、国内で設立された全銀行の沿革を調べられます。第七十三国立銀行を検索すると、明治11年12月22日開業であることがわかりました。開業日前後に新聞広告などが出ているかもしれないと思い、マイクロフィルムで当時の記事を探してみることになりました。地道にフィルムに目を通して見ると、毎日新聞大阪本社版明治11年12月22日の紙面に広告が出ているのを発見！「兵庫縣下兵庫出在家町」,「頭取 太田資政」の記載がありました。北風は取締役の名前があり、ここにきて北風初代頭取説が怪しくなってきました。

国立国会図書館デジタルコレクションで、明治11年刊行の『大日本帝国銀行便覧』(<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/800631>)を見てみると、第一国立銀行から順に概要が掲載されていました。39コマ「第七十三国立銀行」の項に「本店 兵庫縣下第貳區攝津國兵庫出石在家町拾六番地」,「頭取 太田資政」とあり、遂に番地が判明！出在家町の表記が「出石在家」となっていますが、地図や他の資料では「出在家」表記になっているので、誤植でしょうか？頭取については、資料によって情報が異なり、太田と北風どちらが初代か判明しませんでした。開業当時の資料であることを踏まえると、初代は太田資政が頭取であった可能性が高いかもしれません。

太田資政についても資料を当たりましたが、銀行に関する記述は見つかりませんでした。初代頭取の決着がつく資料を発見されたら、ぜひお知らせください。(南郷美香)

県立図書館ホームページにて、これまでに県立図書館が国立国会図書館のレファレンス協同データベースに提供したレファレンスの事例を見ていただけるように案内しております。是非そちらもご覧ください。